

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212Q305	緩和・終末期看護方法論 ( Palliative care and End of Life Care in Adult Nursing )	専門教育科目 成人看護学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	3	前	金・1	大野夏稀、脇幸子、末弘理恵、佐藤昂太郎 内線 5055 e-mail : oononatsuki@oita-u.ac.jp

**【授業の概要・到達目標】**

緩和ケアの概念を理解し、治療期から終末期までの対象に生じる身体的、精神的、社会的、スピリチュアル的苦痛に対する支援や家族の支援についての基礎的な知識を修得する。また、緩和・終末期ケアで生じる倫理的課題に対する解決の方向性の探求や援助的コミュニケーションの探求、緩和・終末期ケアにおけるチーム医療の実際の理解を通して、緩和・終末期ケアにおける看護師の役割について考える。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 緩和ケアや終末期ケアに関連する概念について説明できる。	○						
2. 対象に生じる身体・精神・社会・スピリチュアル的苦痛を捉える視点と緩和する方法や家族の支援について説明できる。	○						
3. 緩和・終末期ケアにみられる倫理的問題について倫理原則やガイドラインなどを用いて分析し、解決の方向性を考えることができる。			○	○			
4. 緩和・終末期ケアにおけるチーム医療の実際の理解し、チーム医療の一員としての看護師の役割について自分の考えを述べるができる。					○		

**【授業の内容】**

回	学習内容
1	緩和ケア・終末期ケアの概念、全人的苦痛
2	対象の全人的苦痛とその緩和：身体的苦痛（疼痛・呼吸困難）
3	対象の全人的苦痛とその緩和：身体的苦痛の緩和の実際
4	対象の全人的苦痛とその緩和：精神的・スピリチュアル的苦痛とその緩和
5	対象の全人的苦痛とその緩和：社会的苦痛、スピリチュアル的苦痛とその緩和の実際
6	家族への援助、緩和・終末期ケアにおけるコミュニケーション
7	緩和ケア・終末期ケアにおける倫理的問題
8	コミュニケーションのロールプレイ
9	ホスピスや緩和ケア病棟での終末期ケアの実際
10	緩和ケアにおけるチーム医療の実際
11	対象の抱える全人的苦痛の緩和の実際（事例検討・発表）

**【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】**

A：知識の定着・確認	○	授業後の授業評価シート 時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容を基に学生が対象理解や支援を考えられよう事例を用いる。</li> <li>・事例検討やロールプレイを取り入れ学生が主体的に考え意見交換し学ぶことができるようにする。</li> </ul>
B：意見の表現・交換	○	発問、グループディスカッション	
C：応用志向	○	ロールプレイ、事例検討	
D：知識の活用・創造			

**【時間外学修の内容と時間の目安】**

準備学修	事例検討・ロールプレイの事前課題（10時間）。
事後学修	事例検討やグループディスカッションを通してのレポートの作成、ロールプレイの事後課題（5時間）。

**【教科書】**

・鈴木志津枝、内布敦子編：成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 第2版、ヌーベルヒロカワ 978-4-86174-044-2

**【参考書】** 授業内で紹介する。

**【成績評価方法及び評価の割合】**

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4
期末試験	70%	○	○	○	○
課題レポート・グループディスカッションへの参加状況	30%	○	○	○	○

**【注意事項】** 授業評価シートの提出をもって出席を確認する。

**【備考】**

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	大野夏稀（看護師）、脇幸子（看護師）、末弘理恵（看護師）、佐藤昂太郎（看護師）	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有	
教員以外の指導に関わる実務経験者	医師、看護師、介護専門看護師、緩和ケア認定看護師、臨床心理士	
実務経験をいかした教育内容	看護師としての実務経験をもとに得た知識・技術を講義で役立てる。 事例を用いた演習・講義を通して、緩和ケア・終末期ケアが必要となる人とその家族への看護についての知識・技術・態度を習得する。	
授業形態	面接授業	